

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 a m i a m i		
○保護者評価実施期間	令和6年1月1日		令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年1月1日		令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	車椅子の利用者が多く、福祉車両を2台使用。座位を保つことができない利用者も多く、カーシートやバギーを用意している。事業所内はバリアフリーとし、車椅子が操作しやすい環境を作っている。トイレ内は車いすのまま入ることができ、ベットの設置し、排泄処理ができる環境を作っている。	車椅子で来所した利用者については、設置している車椅子洗い場で車椅子のタイヤを洗い、マット上で水分を拭き、消毒してから室内に入るようにしている。トイレには、排泄の練習ができるように、座位保持機能付きトイレトチェアを2台準備、便器には手すりや、前もたれ装置を設置し、トイレで排泄ができるよう環境を作っている。	利用児の成長に伴い、使用する車いすやバギーも大きくなっており、福祉車両を増やすことを検討中。
2	肢体不自由児が多く来所しており、生活全般に介助を必要とするため、できるだけ利用者と同数の職員を配置し、個別対応ができる環境を作っている。食事や個別活動を行う上で、個々の利用児に必要な支援を障害特性に合わせて考えて支援している。	個々の利用者が、自分の力でできることが増えるよう、食事を自分で食べる練習をするため、先曲がりスプーンや、持ちやすいコップ、掬いやすい皿等、個別に準備し、職員を個別に配置して支援している。自分で食べることができない利用児については、食べやすいスプーンや食事や水分の形態を保護者や学校と連携して考え支援している。	障害特性により、個々の利用者の身体機能や知的部分が大きく異なるため、介助する職員の技術の習得が必要。職員研修の回数を増やし、職員への指導を強化する。
3	保護者の相談は、管理者が対応している。児の成長による病状の変化や、障害の進行等での悩みを抱えている保護者が多いため、個別のSNSや電話、事業所でのモニタリング時に話を聞いている。	送迎時や、利用時と共に保護者が来所した時に、個々の職員が保護者対応をした場合、保護者から、説明不足や理解ができなかった等の話が管理者に届いたことがあり、保護者対応は管理者が行っている。送迎時等、職員が対応する場合は、話を事業所に持ち帰るようにし、管理者がSNSや電話等で回答するようにしている。	保護者同士で悩みが相談できたり、子どもを育ててきた経験を聞くことで、安心材料になることもあるため、利用者保護者で参加しやすい保護者会を行ったり、子どもたちが利用児にどう過ごしているかを知ってもらう機会を増やし、保護者の安心に繋がるよう検討する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	車椅子やバギー置き場の確保。	肢体不自由児が多く、必要備品や車いす、バギーが多い。	利用者の利用曜日によって備品が混雑するので、利用曜日を調整したり、過ごす場所を分ける
2	障害特性や知的の程度、身体機能が大きく違うため、個々の支援を考える難しさ。	全職員が個々の子どもについての理解や支援の進め方を考える能力を育てる指導法。	研修方法、個別指導
3			